



写真左から山谷朱嶺さん、金野日南さん、小杉山遥月さん、森田実里さん

全道中学校かべ新聞コンクール 標茶中学校3年生制作「^{むこう}夢煌」が大賞受賞

標茶中学校3年生の森田実里さん、小杉山遥月さん、金野日南さん、山谷朱嶺さんが制作したかべ新聞「夢煌」が、第15回全道中学校かべ新聞コンクールにて、3年生の部大賞に選ばれました。

夢煌は自分たちにとって身近な「標茶町」をテーマに、運営見直しの話が浮上しているJR釧網線の協議の行方や人口減少などの問題、「なぜ標茶町に道の駅が無いのか」「なぜ毎年多くの実業団が標茶町で合宿するのか」など、日常で気になる疑問についての記事を取り上げられています。

4人はかべ新聞を制作するため、役場や駅などの関係者へ取材を行い、生徒全員へアンケート調査を実施し、その結果から感じたことなどを記事にしました。かべ新聞は全て手書きで作られ、レイアウトも読みやすいように落ち着いた色でまとめるなど、工夫されています。制作にあたり、小杉山さんは「部活が忙しくて、編集会議になかなかメンバーが集まらず、思うように進まなくて苦労しました」、山谷さんは「調査や取材を通

し、人口減少の深刻さをあらためて知ることができました。また、問題に向き合い自分たちで解決策を考えたことで、視野を広げることができ、自分たちにとってプラスになりました」と話してくれました。

制作された新聞は、中学校かべ新聞コンクール道東大会で最優秀賞を受賞し、全道中学校かべ新聞コンクールでは応募総数180点の中から厳しい審査を通過し、見事大賞に選ばれました。

大賞を受賞したことについて、金野さんは「多くの方の協力により大賞という素晴らしい評価をいただくことができました。このかべ新聞を制作したことで標茶町の魅力を再確認することができました」、森田さんは「記事を作るため取材やアンケートをとるなど多くの方に協力を得ながら作成しました。ぜひ多くの方に読んで欲しいです」と笑顔で答えてくれました。

制作されたかべ新聞は今後、中学校や役場、開発センター、図書館での展示が予定されています。

夢煌

中茶標
第三学年



どうなる釧網線

「地域の足」の未来は



存続か？

廃止か？



協議の行方に注目

釧路市と網走市が釧網線の存続について協議している。協議の行方に注目が集まっている。釧路市側は、地域の足としての役割を重視し、存続を希望している。一方、網走市側は、財政負担の軽減や路線の効率化を理由に、廃止を主張している。協議は現在、膠着状態にあると見られる。



駅への愛着
「地域の足」の未来は
釧路市側は、地域の足としての役割を重視し、存続を希望している。一方、網走市側は、財政負担の軽減や路線の効率化を理由に、廃止を主張している。

主張
「地域の足」としての役割を重視し、存続を希望している。一方、網走市側は、財政負担の軽減や路線の効率化を理由に、廃止を主張している。

義足の見方

「地域の足」としての役割を重視し、存続を希望している。一方、網走市側は、財政負担の軽減や路線の効率化を理由に、廃止を主張している。

STOP 人口減少
住みよい街に
人口減少が深刻化している。住みよい街を実現するためには、人口を増やす必要がある。

バス会社は
ハイヤーは
バス会社は、路線の廃止や減便を主張している。一方、ハイヤーは、柔軟なサービスを提供している。

釧網線の現状
釧網線の現状は、利用者の減少と財政負担の増大が懸念されている。



人口減少が深刻化している。住みよい街を実現するためには、人口を増やす必要がある。



これから
これから、地域の発展と人口増加を目指していく必要がある。

町おこしの起爆剤
町おこしの起爆剤として、地域の活性化を図りたい。

標茶町にも「道の駅」を！
標茶町にも「道の駅」を！地域の活性化を図りたい。

CONGRATULATIONS!!
標茶高校 全道準V
標茶高校が全道準優勝を達成した。選手たちは喜びを分かち合っている。

町おこしの起爆剤
町おこしの起爆剤として、地域の活性化を図りたい。

標茶町にも「道の駅」を！
標茶町にも「道の駅」を！地域の活性化を図りたい。

宿たたかう力を
宿たたかう力を、地域の発展に活かしたい。